

## 教養教育科目における言語地図作成の試み

塩川奈々美

徳島大学高等教育研究センター教育の質保証支援室

### 1. はじめに

本発表は、発表者が担当する2021年徳島大学前期教養教育科目「ことばと社会」において取り組んだ言語地図作成の試みについて実践報告を行うものである。

言語地図とは言語地理学的研究において言葉の地理的な分布を把握し、言語変化の歴史の変遷の解明や、伝播の状況を明らかにするための資料として作成される地図である。その言語地図の作成方法は手書きの時代を経て、Adobe Illustrator (CS2~CS5) や Arc GIS (GIS: Geographic Information System) 等、コンピュータを利用した描画が行われるようになったが、それらが高額であったり、専門性の高い機能を備えたソフトであったりすることから、作業環境の確保と操作方法の習得という点において取り掛かりにくいという課題がある。一方で、一連の言語地図作成作業を経験することは、方言語形の分布を地理的な位置と結び付けながら把握するだけでなく、言語データの整理にあたり音韻論・形態論・語彙論・意味論など様々な観点からの分類・分析を通じて、音韻変化・類推など言語変化のパターンを実地に学ぶことができる(福島2008)。初年次学生を中心とした教養教育科目において言語地図の作成を実施することで、方言研究に関心を持つきっかけとすることができるほか、一連の作業を通じて言語データ整理に必要な分析力の養成と汎用的なパソコンスキルの向上を図ることが可能となるなど、一定の教育効果が期待できる。

そこで、プレゼンテーション用ソフトとして広く利用されているMicrosoft OfficeのPowerPointを利用した言語地図の作成環境を整備し、言語地図作成ツールとしての活用を試みた。受講生の意見等を踏まえつつ取組の利点や課題を整理し、今後の教育実践に繋げたい。

### 2. 授業構成

発表者が担当した授業「ことばと社会」は教養教育院科目で、全学部・全学年を対象としている。2021年度前期の受講生は全体で64名であり、学部学科の内訳は表1の通りである。

初回のオリエンテーションと1回の休講、最後の総括を含めた16回の授業のうち、最初の10回についてはオリエンテーションと、言語地図作成に必要な基本的な方言学や日本語学に関する知識の概説的講義を実施した。後半の5回を言語地図の作り方・解釈の仕方等に関する演習式講義とした。コロナ対応が求められた期間と重なったため、最初の10回は完全な同期型オンライン形式(Zoom)で授業を行った。11回目以降はデータ整理方法やパソコン操作の演習が中心であったことから、大学に許可を得て感染対策を講じた上で、教室での受講とするかオンラインで受講するかを自由に選択できる方法をとった。教室での受講を選択した学生は8~22名程度と受講生のごく一部であったが、授業時間外にアポイントを取り、発表者の研究スペースを訪問し、直接指導を求める学生もおり、その都度個別に対応を行った。

表1 「ことばと社会」受講生数と所属内訳

学部	人数(人)
医学部	8
歯学部	15
生物資源産業学部	1
総合科学部	27
理工学部(夜間主含む)	13
<b>合計</b>	<b>64</b>

### 3. Power Point 版言語地図作成ツールの整備

言語地図を作成するには、①位置情報と対応させた言語データと、②位置情報に紐づいた言語(語形)を表す記号を付置するための白地図(白い地図上に①の位置情報を表す地点番号が付置されたもの)、③記号がどの語形を表すかを示した凡例が必要となる。Adobe Illustrator や Arc GIS を利用すれば①を②の地図上にプロットしたり、その地図に③を挿入したりすることは造作もないが、両者ともライセンスが高額であること、専門性の高いソフトで操作方法を教えるのに時間を要すること、Illustrator は言語地図作成に必要な機能に対応するバージョンが絶版であること等、一般教養科目のような専門の異なる多くの学生を対象とした場面ではこうしたソフトを前提とした作業は採用しづらい。そのため、受講生の誰もが保有しているであろう Microsoft Office の Power Point をツールとして整備した。

整備方法は次の通りである。

- (1) プロット用言語データを準備: 使用する地点番号の確定させる。今回の授業では四国地方通信調査の結果 783 地点のデータから四国 4 県 200 地点に絞ってデータベースとした。
- (2) 言語地図用白地図の作成: 利用する地域の白地図を準備し、(1)の住所データに基づき地点番号を手置きする。今回、地点の位置は Arc GIS Online を利用して確認し手置きしたが、地点密度が低ければラベル表示で代用することも可能である。
- (3) 記号用特殊フォントのインストールと画像化: 地図上にプロットする記号用のフォントとして「紋字朗君」(清水 2013) を採用した。受講生には使用する PC にこのフォントをインストールさせた。また、Mac OS のバージョンによってはインストールできない場合があるため、Mac ユーザー向けに全ての記号を画像化したフォント一覧ファイルを作成した(この作業は教育協力作業として、勤務を志願した学生に依頼した)。  
このツールは手置きでの作業が前提となって

しまうものの、(1)~(3)の整備を行うことで、受講生全員が言語地図を作るための環境(①~③)の全ての条件を満たせるようになる。もちろん、どのような手順で言語データを整理し、どのように PowerPoint 上の白地図に記号を付置していくのかを順を追って説明する必要がある。さらに授業でデモンストレーションを行うだけではなく、学生のペースで作業ができるよう手順を示したスライドを作成し、LMS (manaba) 上で公開するなどの支援体制も必須である。

### 4. 取組の結果と課題

言語地図の良し悪しは記号選択の規則性等も関わるため、必ずしも均質的なプロダクトは望めないが、結果として、全ての学生が最後まで地図を作ることができた。第 11 回~第 15 回にかけて段階的に作業を指示し、出席確認のための課題にしたり期末レポートで解釈を求めたことで、学生の進捗状況をコントロールすることができた。

受講生からも、記号を付置するにつれて浮かび上がってくる方言分布に面白さを感じたり、一連の作業を通じて Microsoft Office ソフトの操作方法が身についたことに充実感を覚えたという声を得られ、総括授業で実施された授業評価アンケートにおいても 93.22% (回答者数 59 名, 回答率 92.10%) の受講生が「良い授業であった」と評価した。方言に対する関心を高めるだけでなく、汎用的なスキルを実地に習得する機会とすることができたのではないだろうか。

一方、実践を通じて感じた課題もある。まず、受講生数が多い場合、これを一人の担当教員で指導し、採点することは負担が大きい。作業を段階的に進める以上、その都度のフィードバックが必要であり、言語データの整理や言語地図の個別添削に相当の時間を要した。また、発表者は(1)~(3)で示した作業に慣れていたが、人によっては授業を行うにあたり出来上がった一式を提供してもらい必要があるかもしれない。今後、分野の教育実践者に意見を頂きつつ、無料教材として WEB ページに公開することも視野に取組を続けたい。